

旭川医科大学開学30周年記念誌発行にあたって

学 長 八 竹 直

この度、旭川医科大学開学30周年記念誌を「旭川医科大学研究フォーラム」の特集号として、発行することになりました。

旭川医科大学は昭和48年9月に設置され、平成15年に開学30周年を迎えました。11月5日に歴代学長、小松弥生医学教育課長を初めとする文部科学省関係者、北海道知事(代理)、旭川市長、北海道大学総長はじめ道内の大学関係者、北海道及び旭川市医師会長、各界代表の方々や多数の教職員にご出席いただき、記念式典と祝賀会を盛会裏に開催することが出来ました。

式典では文部科学大臣、北海道大学総長、北海道知事、旭川市長にご祝辞をいただきました。その後、吉田貴彦健康科学講座教授により、旭川医科大学開設以来、卒業生の道内における活躍の場の広がりを経時的に分析して報告いただき、また吉田晃敏眼科学講座教授からは遠隔医療を通じた地域貢献の様子を報告していただきました。両報告ともに非常に好評を博しました。

記念祝賀会では札幌医科大学長、北海道医師会長及び旭川市医師会長から祝辞をいただき、元旭川医科大学長黒田一秀先生による祝杯の後、本学30年の歩みや、その時々々の苦労を懐かしみ、これからの本学の発展などを話題とした懇談が行われました。また前旭川医科大学長の久保良彦先生と旭川医科大学同窓会長千葉 茂教授からスピーチをいただき、最後に元旭川医科大学長清水哲也先生による万歳三唱でなごやかな祝賀会を閉じました。

その式典に先立って、同日の午後に開学30周年記念事業の一環として、卒業生が色々な分野で活躍しておられる様子を披露していただくとともに、旭川医科大学にまつわる過去、現在、未来の話をしていただくことを目的に、4人の卒業生による「旭川医科大学30年の光跡」と言うタイトルの記念フォーラムが看護学科大講義室で千葉茂教授と野村紀子教授の司会の下に開催されました。当日は来賓ならびに在校生や教職員約170名が参加し、盛会裏に挙行できましたが、開学記念日(休講日)であったため、在校生の出席がやや少なかったのは残念でした。

ご講演いただいた卒業生とテーマは以下の4人の方々です。

- 牧野憲一氏 (第1期生:旭川赤十字病院副院長)
「地域医療への旭川医科大学の貢献 過去、現在、未来」
- 廣川博之氏 (第2期生:旭川医大附属病院 経営企画部教授)
「旭川医科大学附属病院の過去、現在、未来」
- 森 千里氏 (第6期生:千葉大学大学院医学研究院環境生命医学教授)
「千葉大学、京都大学において基礎医学教育及び大学院博士課程教育を行って」
- 中谷祐貴子氏 (第21期生:厚生労働省大臣官房 統計情報部社会統計課 社会医療統計第二係長)
「医療統計から見た30年」

その講演内容はそれぞれに非常に興味深いものであり、今後の旭川医科大学の方向性を示唆するものであったと思います。この講演内容を学内外のもっと多くの方々に知っていただきたく思い、その内容をこの旭川医科大学開学30周年記念特集号に掲載することにしました。

これら30周年記念の催しや最近10年間の主な出来事の写真も掲載するとともに、大学の沿革・年表や講座等の簡単な紹介も掲載して、平成16年で30年の区切りとなるように編集されています。

旭川医科大学は今年の4月から法人化され、運営形態は変わりましたが、当大学に課せられている教育、研究、診療及び地域貢献という役割に変わりはありません。この特集号がこれまでの30年間に生じてきた問題点を改善し、優れている点は大いに伸ばすことを考えるきっかけになるように期待したいと思っています。